



藤森工業株式会社

継続的かつ柔軟に改善を行う基盤を構築し
経営環境の変化に対応する

ソリューション概要

業種

電子回路用材、食品包装材、医薬品包装材、滅菌用包装材などの化成品およびトンネル掘削工事関連資材の製造・販売

年間売上高

567億円/連結 766億円(2007年3月期)

従業員数

938名/連結 1,433名(2007年9月末現在)

本社

東京都中央区

URL

www.zacros.co.jp

ソリューション

SAP® ERP

活用分野

財務会計、管理会計、生産管理、在庫/購買管理、販売管理

導入パートナー

出光興産株式会社

藤森工業株式会社は、LCD用保護フィルムや剥離フィルム等の機能材料、食品・医薬品・産業包装等のパッケージを中心とする包装材料、プラスチック製の折畳液体容器を中心とした容器、トンネル防水シートを中心とした産業資材の製造・販売を行っています。旧来の情報システムでは、データの統合性や情報リードタイムの長さなどが問題となり、経営環境の変化に十分な対応が困難となっていました。SAP ERPの導入により、リアルタイムで整合性が図られた情報を基に分析を行い、経営の品質を向上させ、次への展開を図っています。



SAP Business Transformation Study
Forest Products, Furniture & Textile



導入の背景

- 市場・事業別への組織変更
- 製品の多様化
- 経営分析力向上のニーズ
- 点在するデータの整合性における懸念
- 情報リードタイムの短縮化
- 関連会社との連携強化

導入成功のポイント

- プロジェクトメンバー、ユーザ、パートナーにおける導入に向け一致したベクトル
- パートナーのプロジェクト推進力と問題解決力
- 徹底した並行稼働によるデータの正規化と、ユーザトレーニングの実施
- 取引先への影響や決算レベルなどの社会的責務を最優先した導入方針
- 段階的な他システムとの連携

導入効果

- 多面的な切り口による収益等の分析基盤構築
- 原価管理の強化(標準対比管理の徹底)
- 事業拡張性向上(新工場のスムーズな立上げ)
- 承認プロセスの明確化などによる内部統制の強化
- 業務の標準化(業務委託形態を3パターンに集約など)

SAP選択の理由

- 経営環境の変化に応じ、柔軟に対応できる点
- ベストプラクティス(標準業務プロセス)の活用
- 圧倒的な導入実績とSAPへの信頼性
- バージョンアップの提供体制、保守体制の充実

導入時/運用時のコスト削減のポイント

- アドオン開発と運用の見極め(アドオンの抑制)
- 問題解決に向け、適切なコンサルタントの活用
- 他システムとの連携ツールの活用

- 情報リードタイムの圧縮(2日間からリアルタイムへ)
- 決算期間:約35%短縮
- 間接業務効率化
 - 決算作業工数:約40%削減
 - 設計BOM登録作業工数:約30%削減
 - システム運用管理工数:約20%削減

「SAP ERPの有するプロセスと分析データは企業改革に不可欠です。

SAP ERPの導入により、当社のシステムコンセプトである

“情報を活用した創造的議論を展開し、競争力の向上に寄与する”へ

大きく近づくことができました。今後、さらなる継続的改革を図っていきます」

藤森工業株式会社 経営企画部 部長 嵯峨 裕 氏

非統合システムによる 経営への影響

藤森工業株式会社は、パソコンモニタなどのLCD用保護フィルムなどの機能材料、食品・医薬品のパッケージなどの包装材料、プラスチック製の折畳液体容器などの容器、トンネル防水シートを中心とした産業資材の製造・販売を行っています。同社では、25年以上前に自社開発により構築した基幹系情報システムに、原価計算などの機能を追加して運用してきました。旧来のシステムでは、製品の多様化や事業規模の拡大、事業部制の導入などの経営環境の変化に十分に対応できず、経営戦略立案のための分析能力や情報のスピードが問題となっていました。

それまでのシステムは、一部の情報の入力だけでも最低限の運用ができてしまう状況でした。たとえば、原価金額の入力だけで最低限の処理ができてしまい、その結果、使用した原材料数量やコスト構造を分析できないことがありました。

また、パッチによる伝送方式を採用していたため、在庫状況などを確認しようとしても、2日前の情報しか把握できません。さらに、拠点単位でシステムが最適化されていたため、重複入力が発生し、在庫などの情報を販売部門も独自に管理表を作成して管理するなど、運用面でも非効率な状況でした。このように、システムが十分に統合されていないことに起因し、多くの問題が発生してしまいました。その結果、迅速で詳細な分析が難しく、経営に大きな影響を与えていました。

プロジェクトの3つの目標

藤森工業では、経営環境変化のスピードに柔軟に対応し、継続的に改善を行うための仕組みを整備することを決めました。その目的は、大きく3つの柱からなるものでした。1つは、データを基にした経営

戦略立案による収益向上、2つ目は全体最適と情報の一元化の観点に立った業務プロセス改革の実現、そして、見える化による社員の意識改革でした。経営戦略面では、各事業別や市場・顧客別の収益分析機能や異常を通知するアラート機能、組織や事業構造の変化に対応できる柔軟性が課題でした。プロセス改革では、生販在の連携による計画的な生産プロセスの構築が、意識改革では各自の活動のPDCAサイクルをスピーディにまわすための情報提供が課題となっていました。

確かな整合性と情報のスピードを 向上するSAP ERP

藤森工業では、情報システム再構築にあたり、いくつかのERPパッケージを検討しました。しかし、機能別パッケージの組み合わせでは、結局、システムとして統合されていないため、旧来のシステムと同様に、整合性の問題が解決されず、分析が十分に行えない懸念がありました。

そこで、広範囲の業務をカバーした統合システムであるSAP ERPが候補とされ、最終的に経営環境に合わせた柔軟な対応が可能なる点、導入実績とSAPへの信頼性、SAP ERPの標準プロセス活用への期待、充実した保守体制などが評価され、SAP ERPによる情報システム再構築が決定しました。

ベクトルを一致した導入

導入プロジェクトでは、プロジェクトメンバーやユーザ、導入パートナーのベクトルが一致し、熱意ある取り組みとなりました。「取引先へ迷惑をかけない」「上場企業としての決算レベルを守る」という社会的責務を、各自が徹底して意識しました。夜を徹しての作業が進められ、ユーザや役員からの厚いサポートも得られました。中でも導入パー

トナーからのサポートは、どこまでをアドオン開発とすべきかの見極めや、会社間取引を実現させるための機能面や移行データ処理の運用面など、その豊富なノウハウや推進力によりプロジェクトを強力にバックアップしました。

さらなる効率化、 分析体制の強化へ

SAP ERP導入後、藤森工業では多くの成果を実感しています。多面的な分析が可能になり、これまでのバラバラな情報を検証するような分析から、リアルタイムで創造的な分析を行えるようになりました。スピードの面においても、情報がリアルタイム化され、決算スピードも約35%短縮されました。効率化の面でも、マスタが統合されたことにより、BOMなどへの重複入力や決算工数、システム運用コストが削減されました。

藤森工業では、統合システムにより標準化されたプロセスと強化された分析基盤をさらに活用し、受注センターなど集中化体制構築による効率化を進めることなどを企画しています。今後ともSAPを活用し、経営環境の変化に柔軟に対応する自律した組織体制の下、さらなる競争力向上を図っていきます。